

建設防災 ボランティアニュース 第 57 号

目次

- ・ 総合防災訓練
- ・ 河川愛護月間行事
- ・ 前期道路施設等点検
- ・ 寄稿-「隅田川と勝鬨橋」

平成 27 年度総合防災訓練

—雨の中会員 18 名が奮闘—

今年度の総合防災訓練は9月1日に東京都・立川市合同で立川市の昭和記念公園で実施されました。当協会からは建設局の協力依頼を受け、北北建班8名、北南建班3名、南西班2名、西部公園班3名、本部2名の合計18名が参加しました。

建設局関係の訓練として、多摩直下でマグニチュード7.3の地震が発生したことを想定して、①救出救助訓練(道路障害物除去)、②水圧扉・土のう積み体験訓練、③展示訓練などを実施しました。当日は、訓練開始当初から終了間際の12時ころまで小雨が降り続き、まさに待ったなしの悪天候下での有意義な訓練となりました。

知事は講評のなかで、阪神淡路大震災では助け出された人の9割が共助で救出されていることを紹介しながら、他の自治体との連携のもと自助・共助が大切なことを強調していました。また講評の席には安倍総理大臣や関係閣僚も出席しており、この総合防災訓練の大切さを実感しました。



建設局幹部と全参加者集合

この後、建設局関係の参加者は道路啓開訓練会場に再集合して、佐野局長の講評をお聞きし、雨中の防災訓練への参加に対するねぎらいの一言をいただき13時ころ訓練は終了しました。

担当理事 久保田元久

道路啓開作業訓練—北北建班

道路啓開作業訓練は、午前9時から各防災機関と連携し、国営昭和記念公園「ゆめひろば」を会場に雨天の中、実施されました。



当協会からは、北北建班・玉置廣、佐々木雅紀、南西建班・井上幸夫の計3名が参加しました。訓練のテーマは、「自助、共助」と「連携」です。参画した道路啓開作業訓練

の内容、流れについて報告させていただきます。

地震の震源は東京多摩地域、規模はM7.3、深さは約12km～30kmを想定。11時15分に発生した地震により、都道153号線の立川市緑町の沿道家屋が倒壊し、道路が約20mに渡り閉塞。被災状況は、ガレキ約5³m、幹周り90cm・長さ5mの倒木が5本散乱状態。緊急車両の経路確保のため道路啓開作業を徹底実行するというものです。

局対策本部長は佐野局長、副本部長は西倉道路監。現地対策本部は藤木所長を本部長とし、道路管理部職員、北北建職員、管内協力業者に加えて当協会員3名です。

訓練の流れは次のとおりです。

地震発生⇒パトロール車による被害状況調査⇒協力業者に道路啓開作業要請⇒道路啓開作業開始(倒木・瓦礫処理)⇒レッカー車による放置車両移動⇒

**消防団ポンプ車による消火活動⇒道路啓開作業終了
⇒消防庁ポンプ車、警視庁レスキュー車両通過⇒瓦
礫積み込み・作業車両現場撤収⇒訓練終了・解散**

当協会員は、現地対策本部情報班として、北々建職員の各担当とペアで、①MCA無線による訓練全般の指示・進行管理、本部との連絡調整、②ホワイトボードを活用した訓練進捗状況記述、③ビデオやカメラによる訓練状況の撮影の3つの業務を担当しました。また、応急対策班、協力業者との連携協働にも参画させていただきました。



本番さながらの訓練終了後、安倍総理、舛添都知事、清水立川市長、佐野建設局長他からの講評を受け、あらためて本訓練テーマである「自助・共助」と「連携」の実践的な危機管理の中で当ボランティア協会の位置付けを深く確認できた次第です。

北北建班 佐々木雅紀、玉置 廣

水圧扉・土嚢積み体験訓練

北北建班＋南西建班＋北南建班

今年度の合同総合防災訓練は北南建班、南西建班の応援を得ながら、北北建班6名の参加です。我々は水防関係の展示、水圧扉体験、土嚢積み体験、水嚢体験の手伝いで、私は土嚢作成、土嚢積みを担当しました。

作業の手順は、①土嚢袋へスコップで3～4杯砂を入れてもらいます。一杯の量が多いと10キロ以上になりかなり重い。②土嚢袋の結び方を示したあと結んでもらいます。結び方について「こんなので大丈夫のかな」と不安がる人もいましたが、意外と大丈夫。③出来上がった土嚢を「ねこ」に乗せ土嚢積み場所へ運びます。④家が描かれたパネルの前で土嚢を千鳥に積み、完了です。

あいにくの小雨模様の中、「人が集まるのかな」

と不安の中でスタートしました。最初は見学者もまばらで、水防のPRに張り切っている我々の方の数が圧倒的に多い状態で、見学者を見つくと無理やり引きずり込み、がんばって説明しました。



建設局長の土嚢積みを手伝う会員

途中から立川市の町内会の集団が来て、リーダーとおぼしき女性の号令のもと、多くの方が参加してくれました。おかげで、一気に土嚢が積みあがりました。その後、見学していた家族のお子さんも挑戦し、貴重な体験をされたと思います。初めての方が多かったようで、土嚢の重さや結び方、積み方等、皆さん興味深く体験されていました。

天候も、朝のうちの小雨が次第に本降りとなり、訓練が終了した午後には雨がやむという、水防訓練としてはぴったりの空模様でした。集中豪雨が増加するなかで、半地下の車庫や地下街への浸水防止、さらには、護岸が壊れた時の応急対策としての土嚢積み体験することにより、水防の大切さのPRができたと思います。

訓練に参加された建設局職員の皆さん、防災ボランティアの皆さん、大変お疲れ様でした。

北北建班 吉原一彦



北南建班：池田繁敏、新川彰、舛原邦明

南西建班：矢野末義

**北北建班：飯塚政憲、海老沢義秀、野村隆、
林銑太郎、藤井賢介、吉原一彦**

展示パネルと簡易トイレの説明

西部公園班

西部公園班は、西部公園緑地事務所の防災公園展示を手伝い、来場者に説明する役として、湯本勝氏、伊藤精美氏と小口の3名が参加しました。テント内では、防災公園の役割、整備の考えなどをパネル展示し、その横で、たった10秒で組み立てられる簡易トイレの展示や、いざというときには、かまどとして使えるベンチを展示し、多くのお客様に見ていただきました。10秒で組み立てられる簡易トイレは、神戸の震災や東日本大震災でボランティア支援を経験をされた方が、現地での簡易トイレの使い勝手を何とか解決したいと新しく開発したもので、キャンプやピクニックなどで簡単に組み立てられるアウトドア用のテントを応用したものです。西部公園の工夫で、これから発売されるというものをお借りして展示することができ、多くの方の関心呼びました。

来場者への私たちの説明の仕方がよかったらしく、開発担当の方も会場に見えていて大変喜んでいただけました。展示する機会があったら、いつでも呼んでくださいといわれました。公民連携で防災に関する情報や新技術を伝えることが大事だと思います。



簡易トイレの説明をした来場者と

今回の防災訓練について、二つ感想を持ちました。一つは、国営昭和記念公園との連携がもつとあるべきではないかということです。国営昭和記念公園自体も広域避難場所として指定されています。外周の柵は、いざというときには取り外して避難できるようになっています。今回、公園側は防災訓練を東京都からの持ち込み企画で場所を

貸すことが自分たちの役割と捉えていたふしがあります。訓練に国営昭和記念公園も参加すべきでなかったかと思います。関係者に伝えたいと思います。

二つ目は、訓練を土日になぜしないかということです。今回あえて平日にしたのかもしれませんが、雨だとはいえ訓練の規模内容にしては一般の参加者が少ない印象でした。

一般の都民に防災活動を啓蒙するために土日に開催する意義は高いと思います。このところ、各地の都立公園でも指定管理者が創意工夫して公園で防災まつりを開催し多くの方が参加する事例が増えてきました。真剣な防災訓練と都民に啓蒙する防災イベントは両立できるものと思います。関心を持ってくれる人が増えれば増えるほど、訓練に参加する人の士気は上がるのではないのでしょうか。

こうしたことを考えさせてくれた今回の防災訓練、大変意義がありました。参加の機会をいただきありがとうございました。

西部公園班 小口健蔵

河川愛護月間行事

“アツーーイ”夏に各地で開催された河川愛護月間行事。新たに「川を歩こう 秋川」が計画されたものの天候不順で中止になるなど、アクシデントもありましたが延べ75名の会員が参加しました。皆さん本当にお疲れ様でした。各行事の参加者等は以下のとおりです。

(1)川を歩こう

河川名	開催日	事務所	会員	都民等
隅田川	7/3	一・五建・治水	4名	62名
秋川	7/9	西建	中止	
石神井川	7/4	四建・六建	3名	71名
南浅川	7/11	南西建	2名	29名
多摩川	7/23	西建	2名	12名
計			11名	174名

(2)川のパネル展

場 所	開催日	会員	都民等
一庁 45 F南展望室	7/4~10	12名	1493名
二庁 1F臨時窓口	7/13~17	10名	564名
新宿西口イベントコーナー	7/27~31	18名	3263名
計		40名	5320名

(3)その他

行事名	開催日	事務所	会員	都民等
環七地下の巨大トンネルを体験	7/12	三建	7名	154名
野川ちびっ子先生集まれ	6/29	北南建	6名	122名
わくわく川清掃&川あそび	7/19	北北建	5名	650名
東京の川を考えるシンポジウム	7/28	河川部	6名	218名
計			24名	1144名

担当理事 高橋紀男、佐藤清美

川を歩こうー隅田川コース

今日(7月3日)は、朝から雨が止まない。両国駅前集合場所の東京水辺ライン両国発着場のご案内をしていると、「今日はやるんですか?」と、何度か参加者の方から声をかけられた。

川を歩こうー隅田川コースは、あいにくの雨であった。それでも、東京水辺ライン両国発着場待合所は、62名の参加者で込み合っていた。主催者側の一建、五建、江東治水そして河川部の担当者の方は、雨の中、受付け、案内、誘導等に忙しく対応されていた。



船上の田所、阿部、佐野、青木会員

今回巡るコースは、隅田川を公園協会の東京水辺ライン「さくら」に乗船して、両国から上流へ向かい桜橋付近でUターンして越中島まで、川から水辺の景観を体験していただく。越中島からのウォーキングコースは相生橋を渡って大川端地区、月島地区を通り、勝鬨橋を渡って聖路加タワーまで、スーパー堤防、テラス護岸、江戸情緒の面影のある佃島界限を散策して、洪水等から人々の安全を確保する川づくりとともに、人と川との関わり合いを再発見していただくとするものである。



雨に煙る参加者と隅田川

江戸期、隅田川は、人々に親しまれ、浮世絵にも多く描かれていた。その中には雨の隅田川の風景も描かれている。古来、八景として選ばれた水辺の情景の中にも雨の風景が入っている。日本では、近江八景などが有名であるが、歌川広重の浮世絵に隅田川八景というものがあり、そのなかでも雨の隅田川を描いた「真崎夜雨」がある(真崎は、白鬚橋の上流右岸にある石浜神社付近にあったとのこと)。

今回の川を歩こうー隅田川コースは、この意味で、雨の隅田川の情趣を満喫するには大変良い機会であった。越中島から相生橋に向け、雨の中を静かな隅田川を見ながら歩き、これが趣のあるものなのかと納得した次第である。

一建班 田所伸夫

東久留米市黒目川・落合川 「わくわく川掃除&川あそび」に参加

日時 7月19日(日) 10~16時

参加者 河川部(6名)、北北建(7名)、東久留米市の高校生約30名、協会員:藤井賢介、吉原一彦、藤江賢治、野村隆、林銑太郎(敬称略)。



参加者集合

9時 50 分に市東部地域センター集合(西武池袋線「東久留米」駅徒歩 10 分)、10 時から「わくわく川掃除&川あそび」実行委員から清掃作業の分担の説明あり、防災ボランティアは黒目川右岸を担当することになりました。昨日までの台風がらみの荒天が去り、梅雨が明けた途端猛暑日となったので、かなり体力を消耗しそうな予感がしましたが、災害はいつ起こるか解らず、暑さ寒さも訓練のうちと全員前向きな考えで、用意されたゴミ取柄、袋を持ち、黒目川に向かいました。

神山大橋脇の管理用通路から、垂直に近い護岸を3mほど降りるので緊張しましたが、全員軽々と降りました。高水敷は狭いので、縦一列になりゴミを回収しますが、どうしても先頭が一番多く拾うことになるので、適時順番を入れ替わり進んで行きました。昨日までに結構出水したようで、高水敷きの草が倒れていました。そのせいかゴミが例年より少ないようでした。それでも、各自の袋は満杯。途中30センチのサバイバルナイフを北北建の職員が発見、警察に届けることにしました。約1キロ上流の門前大橋に到着し通路に上がって、集積場所にゴミ袋を置き、11時に河川清掃終了。

川遊び会場は落合川:不動橋広場で12時集合なので、少々迂回し、荒川工事第二課長に黒目川地下調節を案内していただき、調節池の構造、流入状況などの説明を受けました。黒目川、落合川は湧水が豊富で、水草や魚など大変自然豊かであり、河川の草刈りも環境に配慮して行っているとのこと。

12 時 30 分から川遊びのセレモニーが始まり、市長、藤木所長の挨拶の後、消防の放水シャワーやカヌー、特大浮き輪などを水面に浮かべ、お

子様方多数が川遊びに興じていました。

終わりに、このような行事を通じ、治水、自然環境、川を綺麗にする事の大切さを多くの市民に理解していただき、地域ぐるみのより良い川づくりに、北北建が積極的に取り組まれていることに改めて、敬意を表したいと思います。

北北建班 藤江賢治

野川のちびっ子先生あつまれ!!

第 1 3 回「野川の通信簿」

野川流域連絡会を中心とした市民が小金井市立南小学校の6年生を4班に分かれて、「水質」、「鳥・昆虫」、「水生生物」、「植物」を体験する課外授業を実施している。今回は90名が野川の自然に触れ合う半日の授業に参加し、私たち防災ボランティア北南建班は6名《柿塚、池田、小島、内山、舛原、新川》が参加した。



北南建班集合

私たちの役割は、2名ずつに分かれて小学生グループの各班に随行し、児童の安全や時間調整など、各班の観測・観察の補助とスムーズな行動のための援助であった。

「鳥・昆虫」班は、野川両岸周辺にカラス・ムクドリ・スズメ・ハトなどの鳥を双眼鏡で探し、トノサマバッターやショウリョウバッターなどは草むらを探すなど、子供たちにとって良い経験であった。

当日(6月29日)は、前日が豪雨で雨が残ることが心配されたが、曇り後晴れとなり、子供たちは、元気に9時から12時までの半日を野川の自然に触れ合うことができた。快晴でなかったことが幸いし、熱中症になる子供もいなかった。北南班は、柿塚さんを始め皆さん子供への対応は得意のようでした。

当日は午後2時から協会の「リーダー会議」があり、池田さんと私は終了を見ることなく新宿の道路整備保全公社会議室へ向かった。残った会員は、終了後に昼食会を兼ねて現職員とも意見交換や懇親を深めていたようである。このアフターが楽しみでお手伝いに参加しているので、私は残念な結果でもあった。

北南建班 新川 彰

～環七地下の巨大トンネルを体験—三建班～



活動する各班の紹介

～川を歩こう 石神井川—四建班～



～川を歩こう 南浅川—南西建班～



～川を歩こう 多摩川—西建班～



前期道路施設等点検

前期「道路の施設とバリアフリー点検」が6月5日から7月23日の期間で実施され、協会員59名が参加しました。参加された皆様、暑い中ご苦勞様でした。後期は11月～12月上旬に実施することで依頼を受けています。後期もよろしくお願いいたします。

詳細は下表のとおりです。

事務所	実施日	参加協会員
一 建	6/29・7/2・13	3名
二 建	7/8～16	6名
三 建	6/5・10・11	3名
四 建	6/29～7/10	10名
五 建	7/9～14	5名
六 建	7/2～14	4名
西 建	6/24～7/9	6名
南東建	7/9	9名
南西建	6/30～7/23	8名
北南建	7/6・13・15	3名
北北建	7/1	2名
計		59名

担当理事 久保田元久

都道の徒歩点検に参加して!!

北南建の徒歩点検は、当初7月3日に予定されていたが、雨のため延期となり7月15日の午後となった。当日は台風の影響がそろそろ出始める時期であったが、何とか天気は晴天となり、ひどい

暑さの中、池田、榊原、新川の3名の会員が参加した。猛暑のなかでの徒歩点検であったが、現地に庁有車を止めることが出来ないこともあり、バスと電車で移動して都道ひばりが丘停車場線(112号線)の左右の点検を4名編成2人1組で、北原の交差点から西武池袋線ひばりヶ丘駅まで実施した。

当該路線は、混雑の激しい西東京市北原交差点があり、東大農場に関連した西東京都市計画道路 3.4.9 号線が交差し、また埼玉県からも都県境に係る都道としての整備が要望されている区間であり、北南建の都道としても課題の多い路線である。特に北原交差点付近の都市計画道路については、国土交通省(当時の建設省)から多摩地域の都市計画道路の統一ができていない区間と指摘され、道路ネットワークとして不備のある地域というレッテルを貼られた箇所である。

現地到着 14 時頃から 16 時過ぎまで、徒歩点検を行った。整備された時期から相当経っているにも関わらず、壊れた場所や段差などが見当たらず良く整備がされており、維持管理面からは課題の少ない路線であった。沿線には、コンビニなどの駐車場への切り下げ部のコンクリートブロックが欠けているものや、動いているものもあったが、緊急に改善すべきものは少なかった。しかしコンビニなどを新設する際に、道路法第24条による自費工



事によって整備された切り下げ部については、車両の出入りが多いこともあって、コンクリートブロックの割れなどが気になった。

また当該区間は、歩道の植栽帯にガードパイプなどの横断抑止柵の設置がない区間であった。一時、植栽帯のある歩道にはガードパイプを設置しないという通達が出た時期の整備であることから、全体として極端にガードパイプの設置が無い路線となっている。

他にも境界標杭の矢印の設置が少し気になっ

た。歩道の市道巻込み部の境界標が左右に必ずあるなど、境界ブロックがあるので、あまり必要がないのではと思いながらの点検であった。

北南建班 新川 彰

寄稿

10周年を迎えてなお盛況の「勝鬨橋ミニツアー」。お客様はどのような感想をお持ちかと思い、夏休みに見えられた中学3年生の山本将大さんに原稿をお願いしたところ、快く御受けいただきました。この場を借りて御礼するとともに、全文を紹介します。

隅田川と勝鬨橋

～勝鬨橋の橋脚内部を見学して～

東京学芸大学附属竹早中学校 3年 山本将大



はじめまして、僕はこの2年間、学校で毎年夏に行く、自由研究・卒業研究において、隅田川について研究をしてきました。

昨年度の研究では、地域の水害対策・水辺整備に重点を置き、スーパー堤防の有効性について研究をしました。今年は、水上交通を主に隅田川流域の観光資源にも目を向けながら、来る2020年東京オリンピックを含め、観光客をいかに隅田川に呼び込むことができるかという研究を行いました。

その一環として、8月6日に、勝鬨橋の見学ツアーに参加させていただきました。

僕が今回研究したのは主に隅田川の水上交通についてですが、その上にある大きなテーマは滝廉太郎氏作曲の「花」の歌詞にある「春のうららの隅田川」の復活です。この曲は1900年に起草されました。1923年に関東大震災が発生、震災復興で「永代橋」・「清洲橋」などの橋が建造されました。そして、1940年に皇紀2600年記念万国博覧会の玄関口として、今回見学した「勝鬨橋」が

建造されました。その後、水質が悪化して隅田川に近づく人が少なくなったのと同時に、交通量が増加し、船舶から鉄道、さらには物流の主が自動車へと変遷したことで、船の利用が少なくなり、勝鬨橋の可動橋の技術はひっそりと隠れてしまいました。

しかし、このように、隅田川が苦しい境遇を歩んできている間にも、東京都の方々や市民団体の皆様によって、水質浄化が進み、テラス整備など水辺と街とがまた歩み寄りを戻していること、これはこれから生きる僕たちは、心より感謝したいと思います。

勝鬨橋を見学させていただいた感想は、まず、僕は当時の日本人の技術力にとっても感銘を受けました。そして勝鬨橋は、日本で唯一のシカゴ型双葉式跳開橋であるとのこと、そして、様々な工夫がされている反面、弥次郎兵衛をモデルにしているとのことで単純にも思えますが、とても綿密な橋でした。これを手で計算して設計していたとはびっくりです。特に、1000t あるという、カウンターウエイトで橋を持ち上げてしまうことに驚いたとともに、これを受ける軸受が思ったよりも小さかったのでもさらに驚きました。



熱心に説明を聞く山本さん

その日はとても暑さが厳しく(その後もっと暑くなると思いませんでしたが…)、川の中にある橋脚内部はとても涼しく、外に戻りたくないとも思っていました。川好きの僕にとって、ヘルメットとハーネスにカラビナをつけて見学をするこの探険は、何度行っても飽きないような場所でまた見学させていただきたいと思いました。

これから、築地には市場跡地に「築地魚河岸」という新施設が完成、勝鬨橋と築地大橋の間には

新たな船着場が作られる予定だそうです。そこでさらなる勝鬨橋地域の発展に僕は期待したいと思います。

たくさんの魅力がある勝鬨橋をわかりやすく専門的に、そして安全に教えてくださった東京都建設防災ボランティア勝鬨橋案内活動スタッフの皆様、本当にありがとうございました。



新規会員の紹介

横溝良一さん(本部、砂防)

長島修一さん(六建班、砂防、ミニツアー)

よろしくお願いいたします。

※ 協会からのお知らせ ※

- ① 今年の現場見学会は11月11日(水)に北北建の案内で府中所沢線等を巡ります。参加者はお忘れなきよう願います。
- ② 勝鬨橋ミニツアー研修会を11月26日(木)に道路整備保全公社で開催します。今年は10周年に当たります。活動会員はぜひご参加ください。
- ③ 各班の活動報告をお待ちしています。ぜひ下記編集担当理事又は林まで連絡願います。
林アドレス(mikio.hayashi@okumuragumi.jp)
- ④ 協会のH. P(東京都建設防災ボランティア掲示板)も、たまに閲覧してみてください。
アドレス(<http://tokyo-adv.info/>)

発行人 杉浦 浩

発行 東京都建設防災ボランティア協会

新宿区西新宿 2-7-1

小田急第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 高橋 紀男、林 幹生

堀内 康彦、丸岡 敏夫

